

つつが虫病の発生について

市内において、つつが虫病(4類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

1 概要 令和7年12月2日(火)、つつが虫病の発生届出があった。

2 患者情報 八幡西区在住、70代、男性(虫の刺し口皮疹あり)

3 経過

11月22日(土)	発熱、咳、咽頭痛、全身の皮疹あり。
11月25日(火)	A 医療機関受診。
11月27日(木)	発熱継続のため、B 医療機関を受診し、 C 医療機関を紹介される。
11月28日(金)	C 医療機関を受診し、入院となる。 発熱、呼吸苦、全身に紅斑あり。 刺し口の痂皮を採取。
12月2日(火)	検査の結果、つつが虫病と診断。

4 現在の状況 入院中

5 感染原因 不明

6 行政対応 患者に対する健康調査の実施。

7 つつが虫病の北九州市への届出状況(単位:人)

(令和7年12月3日現在)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
発生届出数 (単位:人)	1	0	1	0	0	1 (本件を含む)

【その他】

- 患者の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「《つつが虫病について》の予防のポイント」について市民の皆様に呼びかけています。
報道各位におかれても、別添「《つつが虫病について》の予防のポイント」の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

【つつが虫病について】別添参照

《つつが虫病について》

➤ つつが虫病とは

つつが虫病はつつが虫病リケッチア(*Orientia tsutsugamushi*)を保有するツツガムシ(ダニの一種)に刺されて感染する病気です。

発生時期は春～初夏及び晚秋～冬ですが、媒介ツツガムシの生息地域によって異なります。

➤ 症状

5～14日間の潜伏期間を経て、典型的な症例では39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的な刺し口(ツツガムシに刺された場所にできるかさぶた)がみられます。その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります。全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症します。有効な抗菌薬による治療が適切に行われると劇的に改善します。軽い場合は風邪程度の症状ですが、高齢者などでは呼吸困難、意識障害など重症化し、死亡することがあります。

➤ 感染経路

つつが虫病リケッチア(*Orientia tsutsugamushi*)を保有するツツガムシに刺されることによって感染します。

➤ 予防のポイント

ツツガムシが衣類や身体についているかもしれないため、ツツガムシに刺される前に取り除くことが重要です。

- ・山林、草地、川原などに入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくしましょう。
- ・屋外活動後は、速やかに入浴し、念入りに身体を洗い流しましょう。

【市民の皆さんへ】

山林、畑や河川敷に行った後に、頭痛やだるさが強く、高熱が続いたり、発疹が出た場合には、つつが虫病の可能性がありますので、早めに医療機関を受診してください。